

病院に勤務する新人看護師のプロアクティブ行動に関連する要因に関する研究

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2023-09-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小川, 明佳 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/0002000002

氏 名：小川 明佳

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲 第 50 号

学位授与年月日：令和3年3月22日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文題目：病院に勤務する新人看護師のプロアクティブ行動に関連する要因に関する研究

論文審査委員：主査 教授 池田 真理

副査 教授 小川 久貴子

副査 教授 笹原 朋代

論文内容の要旨

1. 背景

プロアクティブ行動は、組織内の役割を引き受けるのに必要な社会的知識や技術を獲得しようとする個人の主体的な行動であり、若年就業者の成長や定着に有意義と言われている。

2. 目的

本研究では、病院に勤務する新人看護師のプロアクティブ行動に関連する組織要因（組織社会化戦術）および個人要因（プロアクティブ・パーソナリティ、ワーク・エンゲージメント、自己効力感）を明らかにすることを目的とした。

3. 方法

2020年9～11月に関東甲信越・中部・東北地方の一般病床200床以上の674病院で働く2年目看護師3,142人を対象に、無記名でのインターネット調査を実施した。調査項目はプロアクティブ行動尺度と、個人要因として、日本版プロアクティブ・パーソナリティ・スケール、ワーク・エンゲージメント尺度短縮版、一般性セルフ・エフィカシー尺度を、組織要因として、組織社会化戦術尺度（文脈的・内容的・社会的・個人的組織社会化戦術）を用い、属性を加えた。既存尺度は許可を得て使用した。記述統計を算出後、プロアクティブ行動を従属変数とした階層的重回帰分析を行い、モデル1で属性と個人要因（プロアクティブ・パーソナリティ総合得点、ワーク・エンゲージメント総合得点、自己効力感）を、モデル2ではモデル1に加えて組織要因個人的組織社会化戦術得点、文脈的組織社会化戦術得点、内容的組織社会化戦術得点、社会的組織社会化戦術得点）を強制投入した。統計解析には、統計ソフトのIBM SPSS Statistics 26を用い、有意確率は5%とした。

4. 倫理的配慮

東京女子医科大学の「倫理委員会」で承認を得て実施した（承認番号5727）。

5. 結果

回答のあった820名のうち、677名を分析対象とした（有効回答率21.5%）。性別は、女性639名（94.4%）であった。年齢は22～23歳が435名（64.3%）であった。最終学歴（看護学）は、大学299名（44.2%）、専門学校321名（47.4%）であった。対象者の所属施設の概要は、病床数は、200～399床が144名（21.3%）、400～599床が253名（37.4%）、600～799床が105名（15.5%）、800床以上が123名（18.2%）であった。所属施設の集合研修プログラム受講の有無、部署での定期的教育の有無、部署での日常業務教育訓練の有無、技術チェックリストに沿った自己評価実施の有無、病院・病棟のクリニカルラダー等の有無について、9割が実施されていると回答した。属性は、いずれのモデルにおいても有意な関連は示されなかった。階層的重回帰分析の結果、モデル1では、プロアクティブ・パーソナリティとワーク・エンゲージメントは有意な正の関連があり、自己効力感は関連がなかった。モデル2で組織社会化戦術の4つを投入すると、プロアクティブ・パーソナリティ、ワーク・エンゲージメントに加え、文脈的・内容的・社会的組織社会化戦術は有意な正の関連があり、個人的組織社会化戦術は関連がなかった。自由度調整済み決定係数は、モデル1は0.27で、モデル2は0.36であった。

6. 考察

新人看護師のプロアクティブ行動を促進するには、新人看護師のプロアクティブ・パーソナリティ、ワーク・エンゲージメントを高めることが重要であることが示唆された。また、文脈的・内容的・社会的組織社会化戦術の関連があったことから、新人が同僚と一緒に集団研修を受ける環境や、予定や役割の道筋が明確であること、先輩などの役割モデルとの接点のある環境を整えることが重要であることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、病院に勤務する新人看護師のプロアクティブ行動に関連する組織的要因と個人的要因を明らかにすることを目的としている。関連要因が明らかになることで、新人看護師のプロアクティブ行動を高めるためのアプローチを検討できることが意義として挙げられている。勤務2年目の看護師に新人看護師の時を回想してのデータ収集という限界はあるものの、研究参加者の個人情報を守るためにWeb調査の手法を取り入れ、多様な背景のデータ収集を行ったことは評価できる。新人看護師の組織への定着および主体的な行動を促進するためにも、看護管理学に貢献するとともに貴重な研究であり看護学の発展に資する研究であると考え、博士論文として適当と思われる。

以上、本学位申請論文審査の結果、合格とする。